※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０８

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	現代の国語	単位数	３単位	年次	２年次
使用教科書	「新　現代の国語」　（三省堂出版）						
副教材等	「改訂版　漢字検定７～２級対応　書きたくなる　アシスト常用漢字」（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

本科目は実社会・実生活において、実際に活用する見方・考え方、そして言葉の力を養うことに重点を置いています。高校卒業後、就職する人にも専門学校や大学に進学する人にほ本科目の重要性は高いと考えています。言葉を扱うことが得意ではない人も各単元の授業時数を多めに確保して丁寧に学習活動を行い、社会で生きていくための基礎的な言葉の力を培っていきましょう。

２　学習の到達目標

【a 知識及び技能】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとする。
【b 思考力、判断力、表現力等】
論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
【c 学びに向かう力、人間性等】
言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。また、実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特徴について理解し、使っている。加えて、情報と情報の関係について理解し、妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	自分の考えが明確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。また、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味したのち表現している。	自らの語彙量を増やすとともに、実社会で用いることを考え使用しようとしている。また、学習課題に対して粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	文章を読んで概要を把握し、主張と事例の関係を捉えなおす。 ［教材］ 「届く言葉、届かない言葉」	a：主張や論拠など情報と情報の関係について理解している。 b：文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を理解している。 c：粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	ノート プリント 取り組み
	情報と適切に付き合う方法について話し合う。 ［教材］ 「ひとまず、信じない」	a：情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 b：自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。 c：粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	ノート プリント 取り組み
二学期	筆者の主張がどのようなどのような事実に基づいているかを整理・分析する。 ［教材］ 「水の東西」	a：個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 b：目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開になどについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。 c：粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	ノート プリント 取り組み
	文章を読み比べ、それぞれの文章の特徴を構成と表現に着目して比較して表などにまとめ、グループなどで報告しあう。 ［教材］ 「読み比べる　―海ガメの無念」	a：　主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 b：　話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料を効果的に用いるなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 c：粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	ノート プリント 取り組み
	文章を読み比べ、引用の効果について考えるとともに、自分の「折々のことば」を記録する。 ［教材］ 「折々のことば」 「宝さがしみたいに本の世界へ入っていきます」	a：引用の仕方や出展の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。 b：自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や語句など表現を工夫している。 c：粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	ノート プリント 取り組み
三学期	二つの教材を読み比べ、共通しているテーマについて考える。 ［教材］ 「ありのままの世界は見えない」 「ものとことば」	a：推論の仕方を理解し使っている。 b：文章をそれぞれ読み比べ、実社会のなかにある題材について考える。 c：粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	ノート プリント 取り組み
	共通するテーマについて書かれた複数の文章から考えたことを具体的な事例を用いて書く。 ［教材］ 「情報を活用して説得的に書く―小論文」	a：文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解しており、比喩や言い換えといった修辞なども理解して使っている。 b：目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 c：粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	ノート プリント 取り組み

※令和４年度以降入学生用
※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度
※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。
※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　３５　）時間
・書くこと　…　（　３５　）時間
・読むこと　…　（　３５　）時間